
紅き伝説

レッド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

紅き伝説

【Nコード】

N0161Z

【作者名】

レッド

【あらすじ】

火災現場で死ぬ寸前に少女と出会い異世界へ

しかし能力もよくワラカナイ主人公！

どうなるの？

そして運命の女神に愛される主人公の運命は！

ブローグ

俺の名前は高橋 俊。年は23才

さていまの状態を説明しよう。

高卒と同時に消防士になり何度目かのビルの火災現場。

別に危険な現場ではなかった。慣れたものだった。

命綱を付け、先輩と一緒に逃げ遅れが居ないか屋内に侵入したまでは良かった。

火災は大したことなく煙が凄いただけだった。そのため排煙をするべく先輩と離れ窓を開けに行ったのが思えば俺の運の尽き。

いや始まりか……………

先輩と離れ排煙をするべく窓を開けに行ったらまだ確認していない部屋を発見。

逃げ遅れが居ないか中を開けてみる。

部屋を探しても人は居ないか…窓も無いし部屋を出ようとして俺は目を疑った。

扉が無い！

おかしい、それにさっきはつつすらだった煙が濃くなり周りが見えない！！！！！！

なぜだ！やばい！

壁伝いに歩くも出口は見つからない……………

ジリリリリリリリリ！！！！

しまった呼吸器の残量があと僅かだ！！

呼吸器が渋くなってきた……………

もうダメか…………… 思えばいい人生だったのだろうか。

そういえば俺の周りは何時でも大変だったな……………

学生時代は、俺は成績は普通より上だったのに何時もクラスで悪く、
教師から怒られ消防学校でも同じ

他にもいろいろあったがもう呼吸器がやばいな……………

そんな時俺の前に花びらが

「サ…………ク…………ラ…………？」

何でここに？

そして目の前に1人の女の子

いや少女か……………

さっきは居なかったのになぜ？

少女「生きたい？」

ああ……………幻か……………

少女「生きたい？」

もうやばいな呼吸器の計器も0を指している。息もできない。

まあ幻にこんな言うっても仕方ないけれど

「ああ生きたい、そして知らない世界を旅、いや冒険してみたかったよ」

そして、俺の意識は闇に落ちた……

2話

気づくとそこは先の見えない暗闇だった……………

「あれ？俺、死んだはずだよな？」

「いえ、まだ死んでおりません。」

「！！！！？」

突然の声に後ろを振り返ると先ほどの少女が立っていた。
いや美少女がいままで見たことない美少女だよ。

「あなたはまだ死んでおりません。あの時あなたは偶然にも神の領域に足を踏み入れてしまいました。」

「神の領域？あの扉が」

「ええそうです。本来なら入れないのにあなたは入ってしまった。それは世界のバランスを崩してしまうと言うこと、なのであなたは今この場所にいます。」

「もとの場所に戻れないのか？」

「不可能です。あの世界でのあなたは死にました。そして、神の領域に入ったあなたには別な世界に異世界に行ってもらいます。それが世界のバランスを保つためです。」

「はあ、バランスね……………」

「そうバランスです。しかし、そのまま 異世界に行くのはあまりに不憫だと神々が判断いたしました。」

「はあ」

「そこでこれです」

少女はいつの間にか白い箱を突き出したいや自慢気な顔で出されてもどつしりと……………

「この中に異世界で役立であろう能力が入っております。」

「はあ」

「一回引いて中のボールを一つお取りください。」

言われるまま箱に手を入れ中のボールを出す。

黒いボールが出てきた。

「なるほど、やはりあなたは面白い人ですね。では異世界に行って貰います。」

「えっ！能力の説明は？」

体が白く粒子になっていく

「神々の決定では能力の説明は伝えてはならぬと決まっておりますので」

「えええっ！！」

異世界行って能力が分からなくてどうしろと

しかし、もう体のほとんどが無くなっている。

「じゃあ君の名前だけでも！」

「運命の女神と他の神々からは呼ばれております。ではまた。」

そうして俺は異世界に旅立った。

運命の女神「やはりあの人は面白い。神の領域に入り、そして異世界での能力も………うふっ初めて人を好きになりましたわ。高橋

俊……面白い人………あの方なら私の夫に相応しいかも………
神と人、結婚してならないと言う決まりはないのだから………異
世界に行っても私を楽しませてね俊…あと能力からの他に私からの
餞別よ。」

そう言うとき女神は一振りの刀を取り出した。

「さあ、あなたはこれを使いこなせるかしら？」

そう言うとき刀が光に包まれて消えてた。

「さあ行ってらっしゃい俊！力を付けて神の領域に達しなさい。私
は応援してるわよ。」

運命の女神の独り言は闇に消えた………

2 話（後書き）

駄目文ですね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0161z/>

紅き伝説

2011年11月30日22時47分発行